>>School Data
普通科／1900年創立
生徒数／女子1043人（中学465名・高校578名）
進路状況（2008年度実績）／大学 79%・短大 13%・専門学校 2%・その他 7%
東京都八王子市元八王子町2-786
TEL 042-661-9952
URL http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/nichukou/

case2

東京・私立共立女子第二中・高校

子どもの変化や社会情勢に不安をもつ保護者に学校、学年、担任から多彩な情報を提供

「女性の自立」を建学の精神としている共立女子第二中学・高校。東京の郊外にあって豊かな自然に恵まれた中高一貫校だが、中学からそのまま高校に進学する生徒のほかに、高校から新たに入学する生徒もいる。

進路はそのほとんどが大学進学で、およそ半分が系列校である共立女子大学・短期大学に、残り半分が外部の大学等に進学する。2009年度からは、進路実現と学習力・学力の向上を目指し、新たに高校1年生からの特進クラス（APクラス）を設置するなど、進学にいっそう力を入れている。

保護者に対する取り組みは熱心だ。学校としての取り組みのほか、学年団の強い結びつきのもと各学年が工夫して保護者との関係づくりを行っている。今回、お話をうかがった、高校1学年主任の石川敬逸先生、学年副主任の野口賢次先生、健康保健部副主任の伊藤久仁子先生も、同じ学年団で連携をとりながら中学1年から高校1年まで生徒たちをみてきた。そして、三者面談をはじめとする場面で窓口になる担任も、情報提供を中心にいろいろな方面から保護者への働きかけを行っている。

保護者とのかかわりについて6年間の流れを大まかに追って見ていこう。まず、中学1年から2年にかけて思春期の不安定な時期を一緒に乗り越えながら信頼関係を築き上げていき、中学3年から高校1年にかけては進路等の情報をこまめに提供し、スムーズな子離れを促す。そして高校2年からは、生徒が進路実現に向け落ち着いて取り組めるよう、学校と家庭が協力体制を敷いてバックアップしていくという流れになっている（図1）。

問題が起こる前に保護者の不安を取り除く

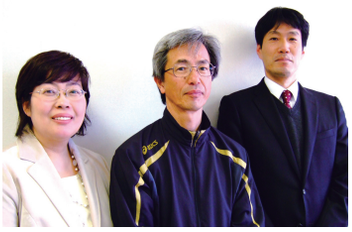
同校では、全学年・全保護者に向けた新年度最初の企画として、毎年5月に健康保健部による心理・教育プログラムの一環である講演会を実施している。今年度のテーマは「子どもの成長と親のかかわり」。その他の年度も主に思春期の親子関係・コミュニケーションについての講演をしてきた。講師は同校のコンサルタントである目白大学人間学部心理カウンセリング学科・黒沢幸子先生、東京大学大学院医学系研究科・森俊夫先生が務めている。

その他、学年別保護者講演会や希望者対象の学習会などを開いているが、いずれも最も関心が高く参加者が多いのは、入学したばかりの中学1年の保護者。そこで、これから訪れるであろう反抗期や生活スタイルの変化といった問題について時間をかけて話し、「それは成長の一過程である。時期がくれば落ち着いてくるので大丈夫」と、保護者に安心感を与えるようにしている。中学または高校に入学したことで子どもの通学範囲が広がり、親同士のネットワークもなくなる。友人関係が見えないことは保護者にとって大きな不安材料となる。そこを学校がフォローするというわけだ。

「入学時点ではおとなしい〝いい子〟が多いんです。でも、成長すれば、どの生徒もただおとなしいというだけではなくなります。『この先いろいろな問題が起こってきますから一緒に解決していきましょう』と、あらかじめ保護者に話しておくことが信頼関係を築く第一

図1 保護者へのかかわり 6年間の流れ

中学1年	信頼関係を築くためのきっかけづくり。これから起こるであろう子どもの変化についてアナウンスする
中学2年	子どもの心の問題（反抗期など）について一緒に考えていく
中学3年	「職場体験」等の進路学習を通して、進路に関する情報提供をこまめに行う
高校1年	引き続き進路情報の提供を行う。生徒のこれからの自立のため、保護者に対しスムーズな"子離れ"を促す
高校2年・高校3年	これまで築いてきた信頼関係をもとに、生徒の進路実現に向けて学校と家庭が協力してバックアップしていく

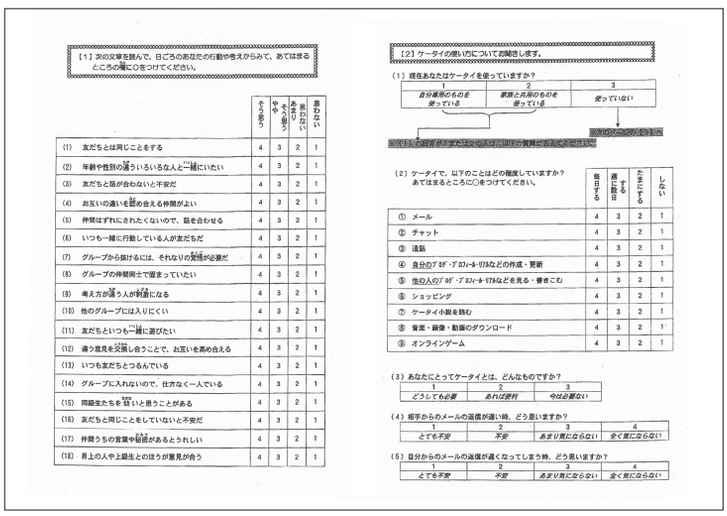


健康保健部副主任
伊藤久仁子先生(左)
学年主任
石川敬逸先生(中)
学年副主任
野口賢次先生(右)

歩になれば」と伊藤先生。もちろん、各講演会は、今その問題のまっただ中にいる中学2年から高校1年ぐらいの生徒の保護者にとっても参考になる内容となっている。

もうひとつ、健康保健部が年に二度必ず行っているのがスクールライフアンケート(図2)。例えばどんな友達がいるのかといったアンケートや、友達への依存度、携帯電話の使用頻度、将来についての大まかな考えや身体のこと、放課後の過ごし方など、学校や家庭での生徒たちの実態を理解するためのものだ(無記名)。もともとは、問題を抱えた生徒を見落としたくないという思いから始まった調査だが、年ごとに設問やデータのとりかたを見直し、現在はこの結果を保護者とのコミュニケーションツールとしても活用している。例えば、スクールカウンセラー(臨床心理士)や外部の専門家を招いての保護者向け講演会・学習会を行うことがあるが、その資料として調査結果を活用する。また、保護者向けの学年通信(図3)にデータを織り込んだ記事を書き、保護者に生徒たちの様子を伝える。全国平均などの数字ではなく共立女子第二のデータであることは、説得力があり保護者の興味を引きつけるという。

図2 スクールライフアンケート(一部)



【1】次の文章を読んで、日ごろの自分たちの行動や考え方からみて、あてはまるところの欄に○をつけてください。

	そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	思わない
(1) 友だちとは同じことをする	4	3	2	1
(2) 年齢や性別の違ういろいろな人と一緒にいたい	4	3	2	1
(3) 友だちと話が合わないと不安だ	4	3	2	1
(4) お互いの違いを認め合える仲間がよい	4	3	2	1
(5) 仲間はずれにされたくないので、話を合わせる	4	3	2	1
(6) いつも一緒に行動している人が友だちだ	4	3	2	1
(7) グループから抜けるには、それなりの覚悟が必要だ	4	3	2	1
(8) グループの仲間同士で固まっていたい	4	3	2	1
(9) 考え方が違う人が刺激になる	4	3	2	1
(10) 他のグループには入りにくい	4	3	2	1
(11) 友だちといつも一緒に遊びたい	4	3	2	1
(12) 違う意見を交換し合うことで、お互いを高め合える	4	3	2	1
(13) いつも友だちとつるんでいる	4	3	2	1
(14) グループに入れないので、仕方なく一人でいる	4	3	2	1
(15) 問題生たちを怖いと思うことがある	4	3	2	1
(16) 友だちと同じことをしていないと不安だ	4	3	2	1
(17) 仲間うちの言葉や話があるとうれしい	4	3	2	1
(18) 自上の人や上級生とのほうが意見が合う	4	3	2	1

【2】ケータイの使いかたについてお聞きします。

(1) 現在あなたはケータイを使っていますか?

1	2	3
自分専用のものを使っている	親族と共用のものを使っている	使っていない

(2) ケータイで、以下のことはどの程度していますか?
あてはまるところに○をつけてください。

	毎日する	週に数日	たまにする	しない
① メール	4	3	2	1
② チャット	4	3	2	1
③ 通話	4	3	2	1
④ 自分のブログ・プロフ・リストなどの作成・更新	4	3	2	1
⑤ 他の人のブログ・プロフ・リストなどを見る・書きこむ	4	3	2	1
⑥ ショッピング	4	3	2	1
⑦ ケータイ小説を読む	4	3	2	1
⑧ 音楽・画像・動画のダウンロード	4	3	2	1
⑨ オンラインゲーム	4	3	2	1

(3) あなたにとってケータイとは、どんなものですか?

1	2	3
どうしても必要	あれば便利	今は必要ない

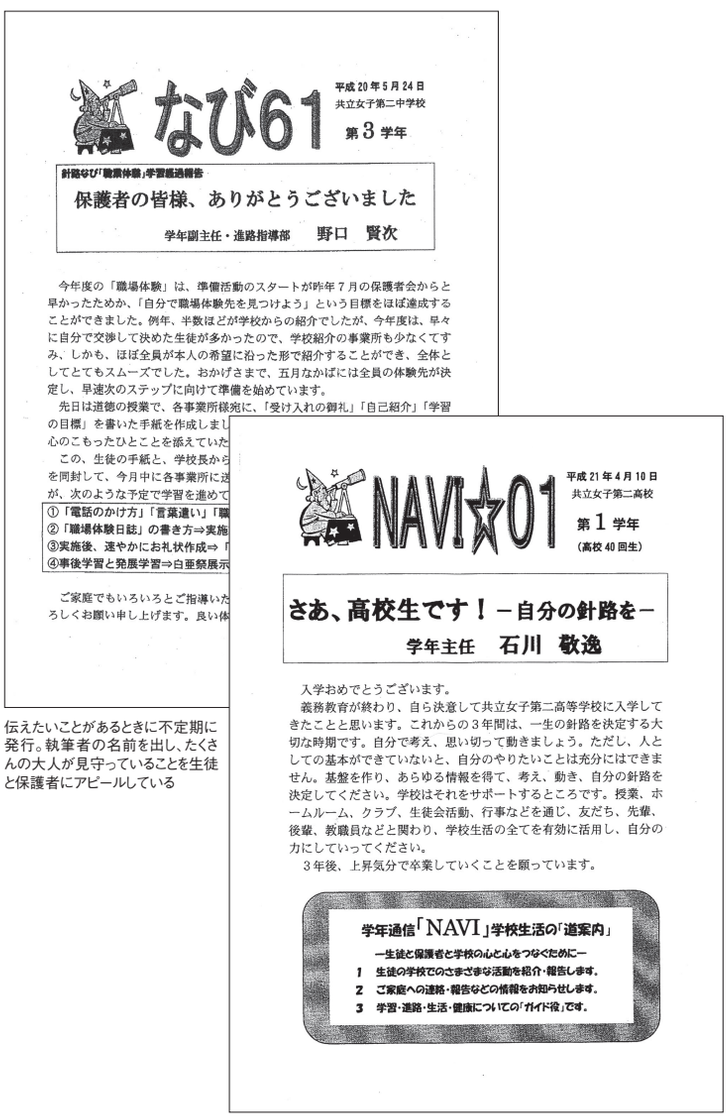
(4) 相手からのメールの返信が遅い時、どう思いますか?

1	2	3	4
とても不安	不安	あまり気にならない	全く気にならない

(5) 自分からのメールの返信が遅くなってしまう時、どう思いますか?

1	2	3	4
とても不安	不安	あまり気にならない	全く気にならない

図3 保護者向け学年通信「なび」



なび61
平成20年5月24日
共立女子第二中学校
第3学年

針路なび「職業体験」学習経過報告

保護者の皆様、ありがとうございました

学年副主任・進路指導部　野口　賢次

今年度の「職場体験」は、準備活動のスタートが昨年7月の保護者会からと早かったためか、「自分で職場体験先を見つけよう」という目標をほぼ達成することができました。例年、半数ほどが学校からの紹介でしたが、今年度は、早々に自分で交渉して決めた生徒が多かったので、学校紹介の事業所も少なくてすみ、しかも、ほぼ全員が本人の希望に沿った形で紹介することができ、全体としてとてもスムーズでした。おかげさまで、五月なかばには全員の体験先が決定し、早速次のステップに向けて準備を始めています。

先日は道徳の授業で、各事業所様宛に、「受け入れの御礼」「自己紹介」「学習の目標」を書いた手紙を作成しま

心のこもったひとことを添えていた

この、生徒の手紙と、学校長から

を同封して、今月中に各事業所に送

が、次のような予定で学習を進めて

①「電話のかけ方」「言葉遣い」「職

②「職場体験日誌」の書き方⇒実施

③実施後、速やかにお礼状作成⇒「

④事後学習と発展学習⇒白亜祭展示

ご家庭でもいろいろとご指導いた

ろしくお願い申し上げます。良い体

NAVI☆01
平成21年4月10日
共立女子第二高校
第1学年
(高校40回生)

さあ、高校生です！ ―自分の針路を―

学年主任　石川　敬逸

入学おめでとうございます。

義務教育が終わり、自ら決意して共立女子第二高等学校に入学してきたことと思います。これからの3年間は、一生の針路を決定する大切な時期です。自分で考え、思い切って動きましょう。ただし、人としての基本ができていないと、自分のやりたいことは充分にはできません。基盤を作り、あらゆる情報を得て、考え、動き、自分の針路を決定してください。学校はそれをサポートするところです。授業、ホームルーム、クラブ、生徒会活動、行事などを通じ、友だち、先輩、後輩、教職員などと関わり、学校生活の全てを有効に活用し、自分の力にしていってください。

3年後、上昇気分で卒業していくことを願っています。

学年通信「NAVI」学校生活の「道案内」
―生徒と保護者と学校の心と心をつなぐために―
1　生徒の学校でのさまざまな活動を紹介・報告します。
2　ご家庭への連絡・報告などの情報をお知らせします。
3　学習・進路・生活・健康についての「ガイド役」です。

伝えたいことがあるときに不定期に発行。執筆者の名前を出し、たくさんの大人が見守っていることを生徒と保護者にアピールしている

職業や進路についての学習に保護者も参加してもらう

生徒が職業や進路の学習をする段階になってきたら、学校が行っているキャリア教育の情報が保護者にも届くようにする。これには進路について一緒に考えてもらうという目的のほか、学校で進学の先まで見据えたキャリア教育をきちんと行っているということをアピールし、保護者に安心してもらうというねらいもある。

例えば、中学3年生に向けた系列大学の就職課職員による講演会「職業に就くってどんなこと?」に、希望する保護者も参加できるようにしたところ、20名以上の参加者があった。主に大学生の就職活動の流れを説明するものだが(図4)、バブル世代の保護者も多く時代の変化に驚きがあったという。あわせて、今のうちからできる簡単な社会人になるための準備も紹介している。

同じく中学3年で行う「職場体験」では、職場への依頼状に保護者からの一言を入れたり、体験終了後には保護者アンケートを実施している。この体験は、訪問先を全部生徒たちが決めアポイントメントもとるという大きな節目の行事となっており、保護者とも生徒の成長ぶりを共有しようというねらいがある。実際に保護者のアンケートでは、子どもの成長ぶりに感動している様子や、体験の内容や仕事について親子でいきいきと話している様子が綴られている。これらの保護者のコメントは、職場担当者のコメントや教員のまとめと共に冊子にまとめて生徒全員に配布。この冊子の中で、前述の就職に関する講演会の内容も紹介した。

こうして子どもの成長を保護者に実感してもらい、子どもが自立していけるという安心感や、育ててくれている学校への信頼感を醸成。保護者の自然な子離れを促しているのである。

図4 大学就職課職員による講演会「職業に就くってどんなこと?」の内容

1.卒業生の進路決定状況
大学・短大別に内定率や就職先上位企業など
2.就職活動の流れ
3.就職活動用語集
4.女子学生に人気の企業
5.「社会人基礎力」の3つの能力と12の要素
6.採用選考にあたって重視する点
7.こんなことから始めてみよう(今からできる準備)
●世の中の動きに関心を持ちましょう〜新聞やニュース番組を観よう
●仕事を題材にした本、漫画を読んでみましょう
●大学生や社会人など年上の人と話しましょう

適切なタイミングで適切な情報を豊富に提供

保護者向け学年通信(図3)では、意識的に進路に関する話題を多くしている。そして、記事を毎号署名原稿とし、書いた先生方の名前を大きく記しているのが特徴だ。学年主任や副主任だけではなく、非常勤講師も含めた教科担当やカウンセラーが書き手となる場合も同じ。これは、こんなにもたくさんの大人たちが見守っているということを、生徒にも保護者にもわかってもらうためである。この小さな工夫も、学校と家庭が協力的なよい関係を築くための助けとなる。この学年通信は、通常生徒から保護者へ手渡してもらうことになっているが、一部は前述の職業体験の記録をまとめた冊子にも掲載。重要な連絡ツールであることを記載し、必ず読んでほしいという思いを託した。学年通信は、学年の中でクラスごとにばらつきのない指導をするうえでも役立っている。

同校では、こうして、適切なタイミングでこまめに情報提供をしている。「実態を率直に伝え、学校側の意図をわかってもらうための材料を豊富に用意し、学校と家庭がチームになる……それが理想の関係と考えています」と伊藤先生。生徒の様子を知りたいという保護者に応えるため、職業体験レポートや自分史、オープンキャンパスレポートなど進路にかかわる成果物は、学園祭や保護者会、面談の待ち時間などに閲覧できるようにもしている。

保護者へ情報提供するときは生徒を通し主体性を育む

これら、学校と保護者の関係づくりがスムーズにいった場合は、生徒も落ち着いて進路について考え、高校2年以降の学習などに集中していけるという。もちろん、あくまでも主役は生徒。学年通信も、中学生のうちは保護者向けに発行するが、高校生になったら生徒向けの文章に切り替える。保護者にも読んでもらうという目的は変わらないが、高校生になったら、行動し考えるのは生徒自身。だから、生徒を尊重し、学校が生徒を飛び越して保護者に直接の情報提供を行うかたちにはしないよう気をつけているのだ。

高校2年生ともなれば、進路決定にかかわる重要な時期を迎える。「この頃にはもう、親がいったから、先生がいったからという安易な進路決定はしないでほしい。親のいうこと、先生のいうこと、すべていった

ん自分のなかで受け入れて自分で最終決定してほしいと思っています」と石川先生。それができるようになるために、時間をかけ、徐々に自立を促す流れにしているのである。

しかし、どうしても進路決定の段階で受け身の生徒が何人か出てきてしまうことは避けられない。「そういうケースが一番注意が必要です」と野口先生。「親の希望だからと簡単に決めて、できなくなったら簡単にあきらめてしまうケースがあります。そこで、希望する進路に対して成績が届かない場合などのリスクを生徒と保護者の両方にきちんと伝え、合意をとっておくように気をつけています」

また、願書を出す段階で親子の意識のずれがないよう、高校3年5月の保護者会と6月の三者面談を重視。保護者会では前年度の進路状況の最終結果を冊子にして配布し、分析した結果を担任からていねいに説明する。6月の面談は最終決定に近いものになるが、この面談の時期も、ここ何年かで早まってきた。

こうしてみると、入学してから最終的な進路決定まで、すべて早め早めの対策を心がけていることがわかる。「保護者に心の準備をしてもらうことが大切。そうしておくことで、何か問題が起こったときにも冷静に対処できますから」(野口先生)

成果と課題

「学校と保護者のいい関係がつくられると、いろいろな場面で保護者が教員のことをフォローしてくださるので、生徒への指導もしやすく助けられることが多いです」と伊藤先生。過去の保護者対応のケースから学んだのは「予防・開発的アプローチ」の大切さ。その教訓を生かし、現在のような取り組みのかたちが徐々にできあがってきた。

また、現在保護者との関係が良好なのは、「学年主任の石川先生が、各担任の指導力を信頼しているということを保護者会のたびに保護者に伝えてくれました。その効果も大きいと思います」と、野口先生、伊藤先生は語る。保護者には常に不安があるということを前提に、その不安を払拭する努力を積み重ねている。

一方で伊藤先生は、今年度の高校1年生の保護者と接して、「将来の職業や就職への関心の大きさに驚いた」という。どの大学・学部に進学すれば資格がとれるのか、将来役に立つ資格は何かといった、かつてはもう少しあとで生徒自身が考え調べるようなことを、保護者も生徒も調べてきている印象があり、社会状況の変化を感じたそうだ。同校の場合、職業に関する情報提供は中学3年生のときに集中するので、高校から入学する生徒の保護者には特にていねいな情報提供を心がけている。「職業や資格の中身などは保護者の方もよく調べていらっしゃるようです。けれども、大学受験情報と同時に『女子学生の就職の現状』といった生きた情報も、今後は高校1年生でも提供したほうがいいのかもしれません」

保護者の声

■職場体験に関する感想や意見

●職場体験に行く前はいろいろと不満があったようなので心配していましたが、体験から帰ってきてから「楽しかった」という言葉を聞き、とても驚きました。充実していたようで、テレビや友達以外のことで、親子で話せたことがとてもよかったです。

●「働く」ことが体験で実感できたようです。ふだん満ち足りた生活を送っているので、「働く」「お金をもらう」という意味や企業の中にいる自分の姿がイメージできたようで、大変充実した2日間であったと話していました。

●親としても、相談にのりかかわれたことがうれしい。手が離れ、親が少しウザイ存在の年頃なので、こういうかかわりが持てるとよいと思う。職種によるが、2日間では短いような気もします。

●社会に触れるよい機会になりました。世の中の厳しさを勉強したように思います。

●仕事の大変さを2日間体験できて、本人にとってとてもプラスになったと思います。「学校で決められた場所から選ぶ」のではなく、「自分で探してお願いすること」が大切だと感じました。

●自分たちで問い合わせの電話を入れ、何件か断られながらも探して、体験場所を見つけることができ、正直驚きました。このような機会をいただけたこと、大変有意義でした。少しは成長できたでしょうか…。

●子どもはあまり話をしてくれないのですが、充実感のある生き生きとした表情と、「疲れたぁ!」と気を抜いている姿を見るときっと得るものがあったのだろうと感じ取れました。

●とても感激して、充実して帰ってまいりました。周りの方の気配りに気づき、仕事の難しさ、厳しさや、仕上がったときの喜びを知ることができ、大変よい体験ができたようでした。

●大変学びの多かった2日間だったようです。とても疲れて帰ってきましたが、子どもたちの元気な様子に「働くこと」の大変さと喜びを感じていたようでした。子どもの成長を感じた2日間でした。